

森林と私たち

対 象：小学校高学年生：各グループ 30 名位

教科／分野：自然教育と体験学習

授業時間数：室内学習に 90 分、体験学習に 90 分、自分なりの取り組みの検討に 45 分

場 所：酒々井町の小学校を候補として考えています。

ESD プログラ ムへの 想い	<p>自然、特にその多くを占める日本の森に対する意識を強く持って、森の多機能（木材の提供、生物多様性の提供、森林セラピー及びストレスフリーの効果、二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止効果等）を実感することにより、おのずから ESD に寄与できるようになるのではないかと考えています。これらの効果を理解、体感してもらい、学習者に、これからの活動あるいは森の存続、整備の必要性を広める母体になってほしい。</p>
目 標	<p>子ども達が</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：森林の成り立ちの基本的な知識を習得する。 2：人工林、里山林、天然林、荒れた森林を散策してその違いを体感する。 3：上記の異なった森林の散策による精神あるいは肉体におよぼす違いを感じる。 単にああ～ここはいるだけで気分がいいとか、なんか落ち着かないくらいの感じが持てれば十分。 4：これらの感じたことから、森林に対して自発的に考え、行動するキッカケを作る。 5：自然あるいは森の中に自分を置いて遊び、癒し、安らぎ等を感じ、その雰囲気醸し出す環境に興味を持って、自分でもなんとかこのような自然環境を作ろうとする、あるいは維持したいと思うようになること。
特 徴	<p>日本は国土の 2/3 を森が占めるとい世界でも有数の森林国家です。その日本の森に関する知識を基礎から正しく理解してもらうこと（日本には亜熱帯から令温帯までに属する森林がありますが、ここでは千葉の代表的な温帯の森の知識に絞りたいと思います。実際の体感と結びつけるためです。）</p> <p>実際に色々な森を体感してもらい、その成り立ちと知識として持っている森の概念との比較を行う事が特徴となります。また、どのような森が、いて心地良く癒し効果があり、どのような森が心地よくないかも体感でき、なぜだろうと考えるきっかけを作れるものと思います。</p>
持続可能な社会づくりの構成概念	<p>森林に対して行動するキッカケが出来た後、いざ行動に移ろうとすると、多くの準備が必要になってきます。<u>個々の知識、興味、専門性の多様性</u>が要求され、<u>従って多くの仲間が必要になります</u>。対象森林が公有林ならば支障は少ないのですが、私有林の場合には地主との共有認識も必要となります。</p> <p>またそれなりの道具も必要になってきます。次の段階としましては、森林計画を作成して、各計画段階での達成モニタリングも要求されるようになると思います。しかし、このステップはこのプログラムの次の段階になると思われます。ここでは、森は大切な自然で、なんとか保全、維持する必要があるという共通概念を持てれば成功と考えます。</p> <p>必要とされる概念としましては多様性、連携性が重要だと思えます。</p>
重視する能力・態度	<p>自然が対象なので、理屈では分からないことが出てくると思うので、子供に帰ってなぜ？なぜ？なぜ？という興味を持続して、その理由を考えられるようにしたい。また自分一人ではできないことが多々出てきますので、人とのコミュニケーションも重要になると同時に、将来的にどのように森をしていきたいか（この点は携わる人の間でもかなり違う内容になると思います）かなり話し合い、計画を立てて方向を決めなくてはならないと思うので、総合的な能力、態度が要求されることとなります。</p>

	特に要求される態度あるいは能力としては計画を立てる力、コミュニケーション力が要求されると思います。		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
90分	森に対する基本的な知識が分かるように	教室、公民館の部屋	森の定義を知り、生物多様性の必要性を理解するとともに、森を構成する動植物の役割を知る。自然の中には不必要なものはないという認識の上で森を見てもらうようになれば、その行動、活動のベクトルはいい方向に行ってくれると期待する。
30分	森を感じる（体験）	整備された人工林、荒れた人工林	主に杉林を対象にして、まあまあ整備された人工林と荒れた人工林（主に孟宗竹に侵入された杉林）の比較を感じてもらい、その印象を記憶してもらう。
30分	森+里山を感じる（体験）	里山林	今はあまり残っていないのですが、谷津を中心とした里山林を見てもらい、むかしの人の生活ぶりとその自然の利用の仕方を感じてもらい、サステナビリティを理解してもらう。
30分	自然林を感じる（体験）	鎮守の森	自然林はなかなか見に行けないので、人の手があまり入らない鎮守の森を散策して、その成り立ち雰囲気を感じてもらおう。
45分	森に対する評価と今後のあってほしい森の姿の検討	教室、公民館の部屋	最初はブレインストーミング的に意見をたくさん出してもらって、それをクラス分けする。今後の森の姿を感じてもらい、その為には何をすべきかを考え、漠然としていてもいいので、出席者に方向づけをしてもらう（ブレインストーミング？）
SDGs との 関連性	3) 森林セラピー等による健康と福祉 4) 自然の仕組みを実際に感じて生涯学習のテーマとする 1 3) 森林管理によるCO2削減へささやかながら寄与する 1 5) 「陸の豊かさを守ろう」：この目標が一番フィットする		
学校・地域等との 連携上の 考慮	小学校5年生の社会の授業の中に「わたしたちの生活と環境」という項目があり、その中で体験、特に地域の自然環境についての理解と体感を通じて、より環境に親しみをもってもらおうこと。紙上だけではなく実体験も大切にしたい。この為には教育委員会と協力して、授業のカリキュラムに組めれば最高！ただフィールドが近くにあることが条件になります。		
対象を 発展させる 可能性	酒々井町には小学校は2校あり、どちらかからテスト的に始めて、効果があればもう1校に展開する。また小学生から成年に展開するには、季節を選んで、紅葉あるいは新緑、花の季節を選べば、参加者も増える可能性はあるのではないかと思います。		
その他 補足事項			

プログラム作成者名（団体名）： 小山 端 （酒々井里山フォーラム）